

(公財)のべおか文化事業団 令和3年度事業報告

1. 事業報告書

(1) 概況

当年度は、昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大により施設利用人数の制限など会館の管理運営に多大な影響が生じ、コロナ禍以前の活動は未だにできていない状況ですが、一度延期となった「国民文化祭」（一部の事業は中止）は、開催することができました。

当年度の入場者数については、65,288人（前年度比30,177人増）で、開館以来の総入場者数は7,238,567人となりました。また、各施設の稼働率については、ホール63%（大ホール51%、小ホール47%）、練習室43%、展示室49%、会議室関係79%で、昨年に引き続き低い稼働率となりました。

また施設の利用料金収入については、24,846,695円（前年度比21,054,310円増）となりました。この新型コロナウイルス感染の収束は見通せない状況にありますが、今後とも感染予防の対応に万全を期して、文化芸術の振興に積極的に取り組んでまいります。

(2) 施設の管理について

施設の管理については、施設全般にわたって専門業者による定期的な保守点検を実施し万全を期しておりますが、当文化センターは建築後35年以上経過し、各種設備・機器の計画的な改修が必要となっておりますので、市の主管課へ報告・協議を行い対応に努めてまいります。

当年度は、汚水管破損による駐車場陥没の補修や吊物機構の更新のほか、スタインウェイピアノの弦の交換と外装の補修、Wi-Fi増設の施設整備などを行い、利用者の利便性・快適性の向上を図りました。

また12月に開館する「野口遵記念館」の備品の整備など、施設管理の準備を進めています。

(3) 自主文化事業について

当年度の自主文化事業については、延期または中止になったものは昨年より少なかったのですが、市民の皆さんの警戒心は依然として強く、入場者は総体的に少なく厳しい収支となりました。

住友海上文化財団助成事業「藤木大地&徳永真一郎 うたとギターのコンサート」と文化庁助成事業「この子たちの夏 1945 ヒロシマ・ナガサキ」は、地元の少年少女合唱団の子どもたちや高校放送部の学生が出演し、貴重な経験になったと思います。

「国民文化祭」関連事業では、「のべおか第九演奏会」を地元出身の指揮者、地元のアマチュアオーケストラと総勢220名の合唱団で実現させ、マスク着用という条件を感じさせない力強く心に響く歓喜の歌を響かせてくれました。

今後も幅広い世代の市民の方々が参加できる事業を企画していく計画です。

当年度の自主文化事業の全体的な実績は、入場者数が5,462人で、収支は△2,939,614円となりましたが、他の予算流用で対処いたしました。

また「野口遵記念館」開館に合わせ、様々な記念事業を今後2年間にわたり計画しており、市民ニーズを反映した芸術鑑賞の機会の提供、地域の文化団体との連携・支援に職員一同努めてまいります。